

～つなげよう地域の力！ 育もう福祉の絆！～

五井地区行動計画 (計画期間：2018年度から2021年度)



「五井」
福祉のまちづくり
計画



五井地区社会福祉協議会
五井地区行動計画策定委員会

～～ご挨拶～～

五井地区地域住民の皆様には、日頃から地区社協の事業活動に大変なご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨今、様々な生活・福祉課題が増大する中、「支え合い・助け合い、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」は、益々加速する超少子高齢化社会の中で大変重要な課題であり、地域の関係機関・団体さらには地域住民と連携・協働して、実情に則した地域福祉の推進を強力に推進する必要があると考えます。

このような中、市原市では今後10年の地域福祉を推進する計画として「市原市地域福祉パートナーシッププラン」を策定し、また、市原市社会福祉協議会でも当計画と連携する「第5次地域福祉活動計画」を策定しました。その中で、中域福祉圏の推進主体である「地区社会福祉協議会」が、それぞれの地域特性に応じた地域づくりの指標となる「地区行動計画」を策定し、地域福祉活動を強力に推進することとしました。

このことから五井地区社協では、地域住民や関係機関、団体からなる「五井地区行動計画策定委員会」において、地域課題や地域づくりの目標、取り組み方針等精力的に協議され、ここに「つなげよう地域の力！育もう福祉の絆！」を基本理念とした「五井地区行動計画」を策定し、これに基づき、今後4年間、五井地区地域福祉の推進に取り組んでまいります。

地域の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

結びに、お忙しい中、本計画策定にご尽力いただいた計画策定委員の皆様、関係者の皆様に衷心より感謝申し上げますとご挨拶と致します。

2018年10月

五井地区社会福祉協議会
会長 岡田 廣 高

五井地区にお住いの皆様には、日頃から五井地区の地域福祉活動に参加、ご尽力いただき、五井地区社協副会長としても心から御礼申し上げます。

さて、五井地区行動計画策定にあたっては、老人会五井第1・2支部、民生児童委員協議会、町会長会、小域福祉ネットワークなど多くの団体・組織の代表の方々に「五井地区行動計画策定委員会」委員としてご就任いただき、5回の委員会を開催しました。

計画策定にあたり、まずは、地域住民の皆様が日常生活を送る中で「何が問題・課題であるのか」、次に「問題・課題の解決策は何か」そして「どこが何を主体的に解決に向けて取り組むのか」など様々な議論を重ねました。

その中で、五井地区は様々な地域特性を持つ地域ということで3つのゾーン①市街・商業地域（五井・白金・若葉） ②住宅地域（京葉・千種） ③農業地域（国府・東海）に分け、計画化することとしました。

抽出された福祉課題・ニーズとしては、一人暮らしの高齢者の見守りや通いの場の必要性、新旧住民のふれあいの場、また、子育て中の親が孤立しないための支援体制の充実、或いは市街化調整区域のため戸数の増加が見込めないことに加え、交通の不便さなど身近な課題が纏められました。これらの課題全てが直ぐに解決できるものではありませんが、市原市社会福祉協議会や行政と連携しながら、計画だけで終わらせることなく、定期的に検証しながら、しっかり課題解決に向けた取り組みや活動を進めていきたいと思います。

終わりに、この計画策定に参加いただきました策定委員の皆様には深く感謝申し上げます。

2018年10月

五井地区行動計画策定委員会
委員長 鵜田 信行

【目 次】

1. 「五井地区行動計画」策定の背景と目的	1
2. 計画の期間	1
3. 計画の推進圏域と体制	1
4. 五井地区の地域特性と課題	2
5. 地域づくりの「基本理念と目標」	5
(1) 基本理念	5
(2) 基本目標	5
(3) 計画の体系	6
6. 具体的な取り組みや活動・事業	7
7. 計画の進行管理	14
《資料編》	14
1. 五井地区行動計画の策定経過	14
2. 五井地区行動計画策定委員会委員名簿	15

1. 「五井地区行動計画」策定の背景と目的

急激に進行している少子高齢化により家族構成も変わり、加えて、生活意識も変化している中で、隣近所同士の付き合いも敬遠されがちとなり、昔からの支え合い助け合う意識が地域により違いはありますが、時代とともに希薄になってきています。

また、様々なことが原因で一つの家庭で介護問題や生活困窮、また、子育ての悩み、不登校、引きこもりなど複合的に生活上の問題を抱え、常に悩みながら生活を送っている家庭も少なくありません。そのような問題に対して公的サービスや制度では解決できないのが現実です。

これからは地域で困っている人、支援を必要とする方々や家庭を支えるのは、やはり住民同士の助け合い・支え合い意識であり、「他人事」になりがちな地域課題を「我が事」として受け止めていくことが地域づくりの基本となります。

私たちが暮らす市原市は広域であり、北・西部地域には臨海部、市街地や住宅団地、そして中・南部には農村地域が広がるなど様々な顔を持っており、そこにある福祉・生活課題も様々です。そして、この五井地区の中でも地域毎に異なる地域特性があります。

そこで「五井地区社会福祉協議会」が主体となって「五井地区行動計画策定委員会」を設置し、多方面から意見をお寄せいただき、多様な地域性をもつ五井地区の将来を見据えた「地域づくり」の目標となる「五井地区行動計画」を策定しました。

2. 計画期間

この計画書の計画期間は、第5次市原市地域福祉活動計画（2017年7月：市原市社会福祉協議会策定）との整合性を鑑み、2018年度から2021年度までの4年間とします。ただし、必要に応じて見直すこととします。

3. 計画の推進圏域と体制

この計画の推進圏域は「五井地区（一部姉崎地区）」とし、この計画に基づき「地域福祉」を進める中心的な組織は「五井地区社会福祉協議会」と小学校区ごとにつくられた「小域福祉ネットワーク」（白金小・若葉小・五井小・千種小・東海（小、中）・国府小（京葉小区は今年度設置予定））としますが、その地域において「地域福祉活動」に取り組む町会（自治会）はじめ、様々な組織・団体と連携・協働しながら住民の皆様とともに五井地区の地域福祉の推進に取り組みます。

・・・地区社会福祉協議会（地区社協）・・・

地区社協は、市内11行政区毎（中域福祉圏）に、住民やその地区にある様々な組織・団体で組織構成され、「支え合い・助け合いのあるまち」を目指し、市社会福祉協議会や小域福祉ネットワーク、また、関係団体・機関と連携しながら、その地域にある生活課題や福祉課題を解決するために話し合い、地域のつながりを大切にしながら課題解決に向けた様々な活動を自主的・主体的に実践している組織です。

・・・小域福祉ネットワーク・・・

「小域福祉ネットワーク」は、住民にとって最も身近な圏域（小域福祉圏）である小学校区を単位とし、その地域にある様々な組織・団体で組織化され、生活課題や地域の課題を解決するための話し合いや「地区社協」とも連携しながら様々な活動・事業を行っています。

【五井地区の小域福祉ネットワーク】

- ①白金スマイルネットワーク（白金小学校区）②五井福祉ネットワーク（五井小学校区）
③わかば福祉ネットワーク（若葉小学校区）④千種小学校区小域福祉ネットワーク
⑤国府小学校区小域福祉ネットワーク⑥東海小・中学校区小域福祉ネットワーク
⑦京葉小学校区（今年度設置予定）※東海地区は中学校区域を対象としています。

4. 五井地区の地域特性と課題

(1) 地域の特徴

市原市の中心核である五井地区は、北側は東京湾に面し、その一帯はコンビナート、工業地帯が立地し、ＪＲ五井駅周辺にはサンプラザ市原をはじめ公共施設が多く様々な情報を発信しています。また、平成 19 年から五井駅東口周辺の市街地開発が始まり、大型商業施設や公園などの整備がすすめられるとともに、五井駅北西部では人口や都市機能が集積しています。

人口はおよそ 66,000 人で市全体の約 4 分の 1 を擁し、居住形態は民間の賃貸住宅（アパート・マンション等）が多く人口集中の要因ともなっています。また、五井駅はＪＲ内房線と小湊鉄道が接続し、高速バスの発着地となるなど本市の玄関口として交通結節点機能を有しています。

一方、内陸部には豊かな水を湛えた「養老川」が縦断しており、稲作、梨栽培などの農地も多く残されており、「臨海部」、「都市部」、「住宅地」、「農業地域」と多様な地域性をもつ地区であり、流入・流出人口も多く、そこに住む住民の価値観も様々なものがうかがえます。

(2) 五井地区小学校区別人口統計

2017. 5. 1 現在

区 分	市全体	地区全体	白金小区	若葉小区	五井小区	京葉小区	千種小区	国府小区	東海小区
人口(人)	278,468	65,841	8,909	6,474	18,101	10,188	14,920	1,903	5,346
若年者人口 (15歳未満)(人)	28,841	7,482	882	642	2,183	1,308	1,853	157	457
若年者人口割合 (%)	10.4	11.4	9.9	9.9	12.1	12.8	12.4	8.3	8.5
高齢者人口 (65歳以上)(人)	75,511	14,603	2,034	1,621	3,562	1,717	3,272	636	1,761
高齢者人口割合 (%)	27.1	22.2	22.8	25.0	19.7	16.9	21.9	33.4	32.9
一人暮らし高齢者数(人)	17,225	3,942	586	451	1,073	452	906	115	359
高齢者のみ世帯数(世帯)	31,986	6,451	934	737	1,666	755	1,451	234	671

(注) 上記のデータは「小学校通学区域」での数値となりますので行政区の数値と異なります。

~~~~~地域の課題~~~~~

五井地区行動計画策定委員会では、計画策定にあたり先ずは、地域の「生活課題」や「福祉課題」を抽出・整理をしました。前述のとおり、五井地区は地域毎に地域性が異なっていることから、概ね共通した地域性をもつ地域を次の３つの区分（小学校通学区域単位）に分けることとしました。

新興住宅地域で地区外、市原市外からの人口流入が進み、急激に人口が増加し発展している地区ですが、新旧住民の地域に対する意識・価値観の違い、関わりの薄さなどが課題として挙げられています。

住宅地域 (京葉・千種小学校区)



五井地区の内陸部に位置し、稲作や梨栽培などの農地も多く緑豊かな地域であり、地縁・血縁関係など地域つながりも深い地域ですが、交通アクセスの不便さ、高齢者世帯の増加、農業後継者不足に伴う耕作放棄地など地域環境に多くの課題があります。

市街地・商業地域 (白金・五井・若葉小学校区)



早くから市街地開発が進められ、市原市の交通節点機能を有し、そこに大型商業施設や公共施設が集積し、市原市の玄関口として発展してきた地域ですが、一方では一人暮らし高齢者や高齢者世帯が増加し、住民同士の関わりが薄い中で、課題が潜在化しているものがあります。

農業地域 (国府・東海小、中学校区)



以下の課題は、抽出された多くの課題の中で、主な課題としてピックアップしたものです。

抽出された地域の

課題

《白金・五井・若葉小学校区》

1. 高齢者がふれ合い、交流する場が少ない。
2. 子育て中の親が孤立しないような支援の充実が望まれる。
3. 古くからある地域と新興住宅との関わりが希薄であり地域に対する一体感に乏しい。
4. 一人暮らし高齢者及び高齢者世帯の日常生活上の困りごとが増大している。
5. 困りごとを相談したいと思っても相談機関がわからない。
6. 一人暮らし高齢者などに対する地域見守り活動が必要である。
7. 児童・生徒の登下校時の交通事故や不審者などの不安が大きい。
8. ゴミステーションや公園などの公共の場がきれいにされていない。
9. 地域内の組織や団体の活動やつながりが良くわからない。
10. 活動組織の高齢化、固定化が問題となっている。いつの間にか見守る立場から見守られている。

《京葉・千種小学校区》

1. 新住民の割合が圧倒的に多くなり、互いに干渉しない雰囲気が強くなっている。
2. 新旧住民の意識や世代の違いにより地域住民としての考え方に違いが感じられる。双方まとまりのある地域づくりが求められている。
3. 町会未加入世帯が多く地域のつながりが弱い。
4. 高齢者世帯や一人暮らし高齢者でゴミ出し等のちょっとしたことで困っている人がいる。
5. 一人暮らし高齢者などに対する地域見守り活動が必要である。
6. 通学路に幹線道路の横断や狭い道路が多く交通事故の心配がある。
7. 川周辺に葦が茂り火災の不安や不法投棄が続いている。

《国府・東海小、中学校区》

1. 公共施設などがなく、住民が集う場がない。
2. 市街化調整区域のため戸数の増加が少なく、また、少子高齢化が加速している。
3. 高齢者同士の支え合いが地域を支えている実態がある。
4. 交通アクセスが悪く、特に高齢者が買い物や通院などで困っている人が増えている。
5. 気兼ねなく軽微な作業を依頼できる有償サービスがあると良い。
6. 一人暮らし高齢者などに対する地域見守り活動が必要である。
7. 耕作放棄地増加等に伴う地域環境の悪化が目立ってきている。
8. 学区民会議や小域福祉ネットワークなど様々な組織がつくられているが、整理統合が必要ではないか。
9. 高齢化に伴い、地域活動の担い手が不足し特定の担い手の負担が大きくなっている。

5. 地域づくりの「基本理念と目標」

(1) **基本理念**・・・五井地区行動計画策定委員会では、様々な課題を踏まえて、今後、五井地区として目指す地域の姿を次のとおり掲げました。

～～つなげよう地域の力！育もう福祉の絆！～～

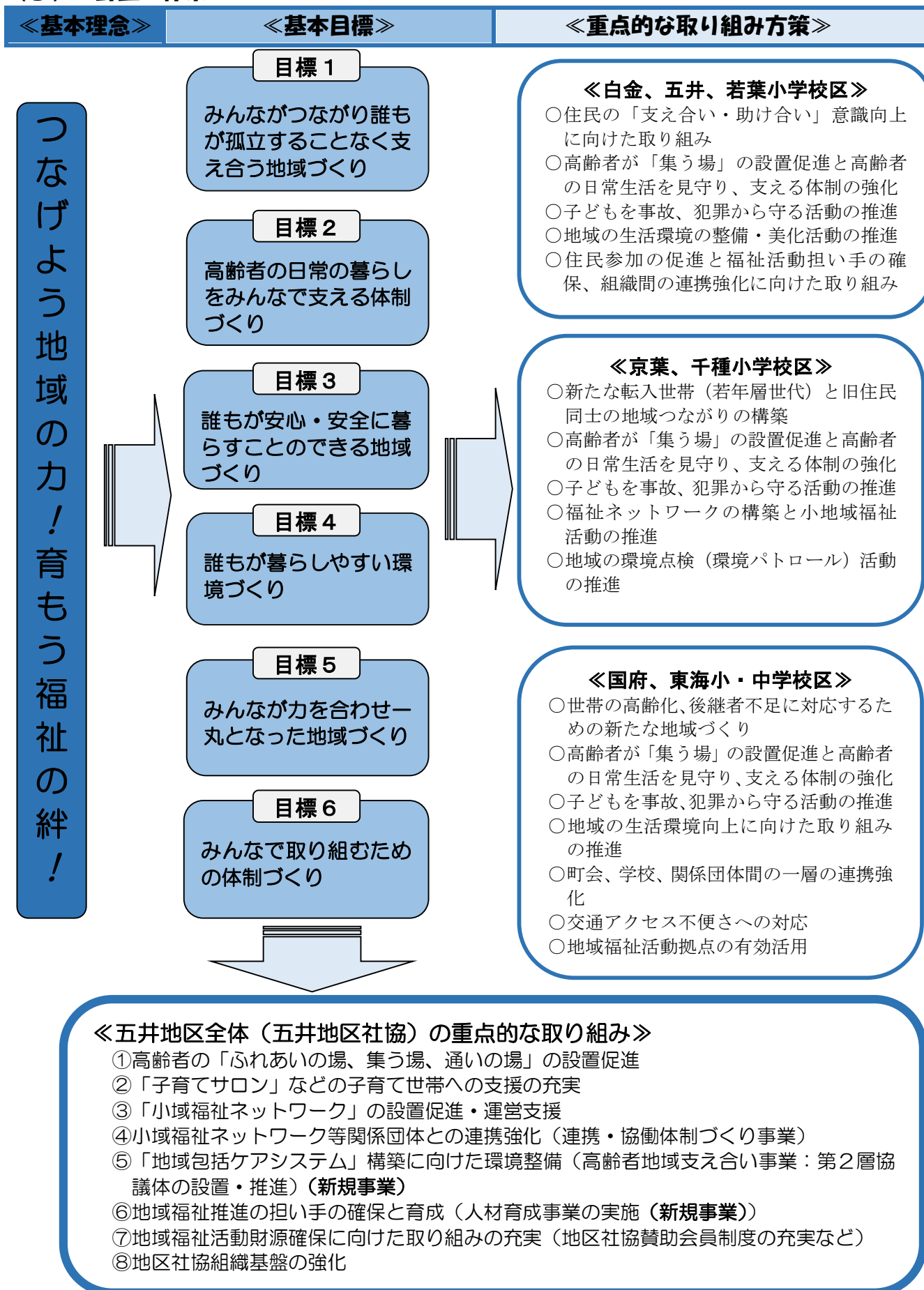
五井地区はまさに市原市の縮図であり様々な地域性があります。その中でそれぞれの地域が特性に応じて発展を遂げてきました。しかしながら今の時代は、社会情勢・環境の変化や価値観の違いにより、住民同士、また、地域間でも昔からのつながりは薄くなり、そのことで生活課題や福祉課題が解決できないでいることが増えてきています。

このことから、今一度、昔ながらの地域がつながり、住民同士がともに支え合い、助け合うことが、あたり前のようにできる地域社会を目指すことの思いを基本理念として掲げました。

(2) **基本目標**・・・「基本理念」を達成するため、五井地区としての共通の目標を次のとおり設定しました。

基本目標	基本目標の考え方
1. みんながつながり誰もが孤立することなく支え合う地域づくり	多様な世代において地域で孤立することなく住民同士のつながりを深め、互いに助け合い、支え合うことが日常的に行われるような地域づくり
2. 高齢者の日常の暮らしをみんなで支える体制づくり	公的制度やサービスだけでは対応できない高齢者などに対して、住民主体の日常生活を支えるための体制づくり
3. 誰もが安心・安全に暮らすことのできる地域づくり	一人暮らしの高齢者や高齢者世帯、障がい者、また、子どもたちが地域で安心・安全に暮らすことのできる地域社会づくり
4. 誰もが暮らしやすい環境づくり	地域や公共の場において住民が気持ち良く暮らすことのできる環境づくり
5. みんなが力を合わせ一丸となった地域づくり	基本目標1～4の目標を達成するための地域住民や様々な組織・団体・関係機関の連携・協働体制を構築する。
6. みんなで取り組むための体制づくり	基本目標1～4の目標を達成するために、地域福祉推進基盤の充実と住民の理解と参加を促進する。

(3) 計画の体系



6. 具体的な取り組みや活動・事業

以下の事業は、目標に向かい「五井地区社協」や「小域福祉ネットワーク」また、地域の様々な組織・団体が協働し、住民の皆様とともに取り組む事業です。

事業実施計画書

基本目標1：みんながつながり誰もが孤立することなく支え合う地域づくり

活動対象 区 域	活動・事業名	実施主体	新規 継続	事業目的及び内容	今後の取り組みの方向性	年度別目標（開催回数・会場数・参加者数値など）			
						2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
五井地区全域	ふれあい・いきいきサロン事業（会食会）	五井地区社協	継続	一人暮らしの高齢者を対象に、「ふれあいの場」や「仲間づくりの場」を提供する中で食事を提供し、閉じこもりの防止、また、生きがいや健康の増進を図る。 ○開催回数：毎月1回（1・8月除く。） ○会 場：五井公民館	・利用者に満足してもらえるよう常に手作りにこだわった食事の提供に取り組むとともに、調理スタッフの確保に努める。	充 実			
	「通いの場」の設置・運営支援（月1回の「通いの場」）	五井地区社協	新規	高齢者の健康維持、介護予防として、また、身近な地域で気軽に出かけ、ふれ合う機会の場としての「通いの場」の設置・運営支援に努める。	・町会をはじめ関係団体と連携しながら「通いの場」を設置しようとする団体への設置また運営支援に積極的に取り組む。	推 進			
	子育てサロン事業（子育て会1・2・3）	五井地区社協	継続	子育てについて悩みを持つ親の相談会、交流会及び講習会などを開催し、育児に関する不安や悩み、子育てに対する孤立感の解消を図る。 ○開催回数：毎月1回（1・8月除く。） ○会 場：五井公民館 なお、12月の開催は、五井公民館主催事業である「子育て広場ほっと」との共催で「合同クリスマス会」を開催している	・内容の充実に努めるとともに、親子で楽しく遊べる雰囲気づくりに心がけ、悩みや心配事が気軽に相談できる環境づくりに努める。	充 実			
	地域活性化事業	五井地区社協	継続	歳末たすけあい募金活動への協力と地域福祉推進の理解と参画を推進するために「五井大市」へ参加し、模擬店及び募金活動を行う。	・本事業については継続していくことで効果が高まることから、参加内容については検討しながら継続していく。	充 実			
	脳トレ教室「なのはな」	地域包括支援センターごい	継続	地域の方々が集まり、共通の脳トレテキストを使用し軽い体操などを採り入れながら交流の場として実施 ○開催日：毎月第1、第3木曜日及び第4金曜日 13時30分～15時00分 ○会 場：五井病院新館5階 会議室	・当事者の方々が自主的に運営を続けていけるよう方向づけていく。	参加者増員	【開催回数】 3回→4回/月	【開催回数】 4回/月	開催場所の増設
	五井生き生き体操クラブ	地域包括支援センターごい	継続	60歳以上の方々の介護予防を目的とし、五井病院リハビリテーションセンター介護予防チームが体操メニューを考案し、地域の方が集まり体操を行う。 ○開催日：毎月第2木曜日 13時30分～15時00分 ○会 場：五井病院新館5階 会議室	・参加者が自主的に行えるようDVDを作成し開催回数増につなげていきたい。	【開催回数】 1回→2回/月	【開催回数】 1回/週	開催場所増設	開催場所増設
	体力測定会	地域包括支援センターごい	継続	介護予防の一環として、自宅で運動メニューを行い記録していく。運動能力の向上を確認するため約3ヵ月に一度の体力測定を、五井病院リハビリテーションセンター介護予防チームの協力を得て実施 ○開催日：3ヵ月に一度 ○会 場：五井病院新館5階 会議室	・運動メニューのレベルを少しずつ上げていき、自宅で続けることの効果を自身で確認できるよう進めていく。	充 実			

	老人クラブ活動・事業	市原市老人クラブ連合会 ・第一支部 ・第二支部	継続	会員同士の交流、健康増進、見聞を広めることなどを目的に、単位クラブ、また、支部単位で様々な活動・事業を実施 ・交流会 ・グランドゴルフ ・カラオケ大会 ・歌謡祭 ・研修旅行 ・囲碁、将棋予選会 ・ボウリング大会 ・交通安全思想の普及、美化運動の推進など	・老人クラブ会員が楽しく集える催し物を企画し、特に女性の参加を促進していく。 ・会員の減少傾向は全国的な課題であり、単位クラブが結成されていない町会、また、解散された地域に対して積極的に組織化を呼びかけていく。	充実 平均月 1 回の活動 平均月 1 回の活動 平均月 1 回の活動 平均月 1 回の活動
白金・五井・若葉小学校区域	地域福祉支援事業（忘年会）	白金小学校区スマイルネットワーク	継続	地域の高齢者とネットワーク推進委員との交流を目的に年 1 回忘年会を開催	・事業を充実していくために担い手（推進員）の確保に努める。	充実
	挨拶運動	白金小学校区スマイルネットワーク	継続	挨拶など礼儀正しい子どもに育つための意識付けを図るとともに交通事故や不審者から守るために実施	・交差点や踏切での挨拶運動を充実させ、子ども達が明るい笑顔で接することができるような取り組みに努める。	充実
	高齢者向け散歩、健康体操	五井福祉ネットワーク	継続	上総更級公園において、高齢者を対象に健康の保持、増進、交流を目的に散歩やラジオ体操を実施	・取り組みを広く周知し、参加者増につなげ、事業の充実を図る。	充実 【参加者】 20 名 【参加者】 50 名 【参加者】 100 名
	学校行事支援活動	五井福祉ネットワーク	継続	五井小学校児童の健全育成の協力として「昔遊び」などで参加する。	・学校と連携を一層深め、多様な形での協力を継続していく。	充実
	茶話会「サロン若葉」の開催	わかば福祉ネットワーク	継続	概ね 65 歳以上の高齢者の「ふれあいの場、集いの場」として毎月（1・8 月を除く。）3 ブロック（川岸・若葉団地・椎の実）に分け、それぞれの町会公民館を借用し開催する。12 月は 3 ブロック合同で、五井公民館で実施 ○開催日：毎月水曜日 午前 10 時 00 分～11 時 30 分（内容） ・健康促進のための健康体操 ・各種ゲーム（手作りゲームと景品） ・歌での遊び（替え歌、合唱）	・高齢者支援に関する類似した諸事業の洗い出しを行ったうえで、関係団体と連携した一元化、また、人材と財源の有効活用を図るため再編成を検討する。	【再編成】 検討 推進 1 回／月・役員会 1 回／月・役員会 【茶話会】 充実 3 会場 ・1 回／月・会場 ・20 名以上／回 3 会場 ・1 回／月・会場 ・25 名以上／回 3 会場 ・1 回／月・会場 ・30 名以上／回 3 会場 ・1 回／月・会場 ・30 名以上／回
	地域福祉支援事業（シニア忘年会）	わかば福祉ネットワーク	継続	上記茶話会を 3 ブロック（会場）の合同茶話会を実施	・参加者のニーズに対応しながら、事業の充実に努める。	充実 ・1 回／年 ・1 回／年 ・1 回／年 ・1 回／年
京葉・千種小学校区域	ふれあい・いきいきサロン事業（茶話会）	千種小学校区小域福祉ネットワーク	継続	一人暮らしの高齢者、高齢者世帯などを対象に、ふれあいの場や仲間づくりの場を提供し、閉じこもりを防止するとともに、生きがいや健康の増進を図る。	・現行年 1 回の開催であるが、平成 30 年度は 2 回に増やす予定 ・将来的には町会単位のより小地域で開催し、対象者が気軽に参加できる形態を検討していく。	拡充 10 月から回数を年 2 回に増 参加者 20～30 名／回 町会単位で年 1 回実施 参加者 20～30 名／回 町会単位で年 2 回実施 参加者 20～30 名／回 町会単位で年 3 回実施 参加者 20～30 名／回
	地域福祉支援事業（忘年会）	千種小学校区小域福祉ネットワーク	継続	一人暮らしの高齢者、高齢者世帯などを対象に、ふれあいの場や仲間づくりの場を提供し、様々なイベントをとり入れ楽しい時間を過ごしてもらう。 ○開催日：12 月	・参加者の要望に応じながら、事業の一層の充実を図る。 ・年 1 回の開催とし、会場は各町会単位の輪番制とする。（参加者 20～30 名／回）	充実
国府・東海小、中学校区域	高齢者花見会	国府小学校区小域福祉ネットワーク	継続	「お花見」と「忘年会」を年 1 回ずつ開催。「お花見」は年齢に関係なく地域に居住する全ての住民に声かけを行い、地元の諏訪神社のサクラを楽しみ親睦を深める。	・高齢者の「ふれあい・集いの場」として、併せて地域住民の交流の場として事業を継続し充実に努める。	充実
	地域福祉支援事業（忘年会）	国府小学校区小域福祉ネットワーク	継続	65 歳以上の高齢者を対象とし、カラオケや踊り、クイズ大会などを企画し、地域の絆を深めている	・高齢者同士が楽しいひと時を過ごし、生きがいを高め、生き活きとした生活が送られるよう事業の充実にと止める。	充実
	地域福祉支援事業（講演会・交流会）	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	継続	地域住民が様々なイベントを通し楽しく交流する中で、情報の交換や生活上の課題解決について話し合う機会とする。	・地域住民の交流をより深めるため、輪投げ大会などの軽スポーツ、茶話会、物づくり教室などを実施していく。	充実

京葉・千種小 学校区域	安心生活見守り支 援事業	千種小学校区小 域福祉ネットワ ーク	継続	一人暮らしの高齢者宅などを定期的に訪問し、見守り活動を行うとともに、孤立感を解消しながら地域で安心して暮らせるよう支援する。 ・安心訪問員が定期的に自宅を訪問し安否確認等を行う。 ・福祉医療情報キットの配布（H30.8.1 現在 26 名）	・新たに事業を開始したが、要支援者の登録のない地域もあることから事業の周知に努め、事業を拡充していく。		充 実			
						【支援者増】 5 名 増 / 前 年度	【支援者増】 5 名 増 / 前年 度	【支援者増】 5 名 増 / 前年 度	【支援者増】 5 名 増 / 前年 度	
国府・東海小、 中学校区域	安心生活見守り支 援事業	国府小学校区小 域福祉ネットワ ーク	継続	一人暮らしの高齢者宅などを定期的に訪問し、見守り活動を行うとともに、孤立感を解消しながら地域で安心して暮らせるよう支援する。 ・安心訪問員が定期的に自宅を訪問し安否確認等を行う。 ・福祉医療情報キットの配布	・福祉医療情報キットを全高齢者世帯に普及していく。		充 実			
		東海小・中学校区 小域福祉ネット ワーク	継続	一人暮らしの高齢者宅などを定期的に訪問し、見守り活動を行うとともに、孤立感を解消しながら地域で安心して暮らせるよう支援する。 ・安心訪問員が定期的に自宅を訪問し安否確認等を行う。 ・福祉医療情報キットの配布	・今後、益々高齢化が進み高齢者世帯が増加すると推測されることから、高齢者が安心して自立した日常生活が送れるよう事業の充実を図る。		充 実			

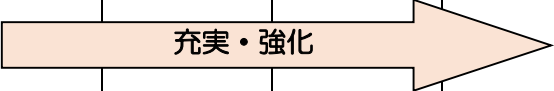
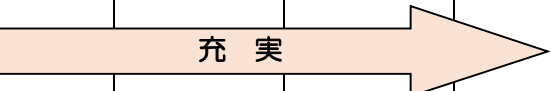
基本目標3：誰もが安心・安全に暮らすことのできる地域づくり

活動対象 区 域	活動・事業名	実施主体	新規 継続	事業目的及び内容	今後の取り組みの方向性	年度別目標（開催回数・会場数・参加者数値など）			
						2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
白金・五井・ 若葉小学校区 域	スクールガード及 び登下校の見守り 活動	白金小学校区ス マイルネットワ ーク	継続	児童が安全登下校できるように踏切や交差点での見守り活動を継続的に実施	・ネットワーク推進員の顔を児童に覚えてもらい、互いに親しみを持ちながら、また、元気に登下校できるような取り組みに心がける。		充 実		
	交通安全講習会	白金小学校区ス マイルネットワ ーク	継続	高齢者を交通事故から守るため、当事者である高齢者を対象に「交通安全講習会」を開催	・交通安全講習会とあわせて、振り込め詐欺などの新たな手口の講話をしてもらい、対応策などを話し合う機会を設けていく		充 実		
	児童の見守り活動	五井福祉ネット ワーク	継続	五井小学校児童の登下校通学路の安全を確保するため見守り活動を登校日全日実施	・危険個所に標識の設置などを関係機関に要望し、より安全な環境づくりに努める。	【活動者】 40 名体制	充 実		
	防犯パトロール	五井福祉ネット ワーク	継続	町会や防犯指導員などと連携し、上総更級公園において防犯パトロールを毎月 1 回実施	・活動の担い手を確保し、パトロール回数を増やしていく。	【活動者】 25 名体制	充 実		
	こども 110 番の 家設置推進活動	わかば福祉ネッ トワーク	継続	若葉小学校区民会議にて啓蒙活動を実施	・子どもの安心・安全体制を確保するため一層の推進に努める。		充実・推進		
	防犯活動支援活動	わかば福祉ネッ トワーク	継続	若葉小学校児童の登下校時スクールガードを実施	・スクールガード要員の増員及び世代交代を進めていく。		充実・推進		
京葉・千種小 学校区域	あいさつ運動	千種小学校区小 域福祉ネットワ ーク	継続	千種小・中学校との共催により、年間 10 回のあいさつ運動を実施。また、夏季休暇中に 2 回の防犯パトロールを実施	・学校との連携をより密にし、継続して実施していく。		充 実		
	子ども見守り隊	地域の有志	継続	京葉小学校の登校時に通学路での見守り、あいさつ活動を実施	・今後も継続実施していく。		推 進		

	防犯パトロール	地域防犯パトロール組織	継続	月 1 回、児童の下校時に併せ地域の防犯パトロールを実施	・今後も継続して実施していくこととし、実施回数を増やすことを検討する。		充 実	
	防災訓練	自主防災会	継続	防災意識の向上を図るため講習会や避難訓練、炊き出し訓練を実施	・今後も継続実施していく。		充 実	
国府・東海小、 中学校区域	自主防災訓練	・村上町会 ・国府小学校区小域福祉ネットワーク	継続	大規模災害を想定した「自主防災訓練」を村上町会と小域福祉ネットワークが連携し、年 1 回実施 ・炊き出し訓練、起震車体験、煙道訓練、災害 DVD	・災害時、「自助」の意識付けと訓練実施の重要性を深めていく。		充 実	
	防犯、ゴミのない地域づくりの推進	・村上町会 ・国府小学校区小域福祉ネットワーク	継続	村上町会と小域福祉ネットワークとの協働で、安心・安全な地域づくりを目指し、年 6 回パトロールを実施し、防犯灯の確認や道路状況、不法投棄の確認と撤去を行い、地域の防犯、環境保全に努める。	・活動を効果的に実施するために、活動者の制服、キャップ、防犯灯、マグネットシートなどの提供を行政に求めている。		充 実	
	児童見守り運動	国府小学校区小域福祉ネットワーク	継続	毎月 1 回国府小学校児童の登校時の見守り、挨拶運動を実施	・今後、一層の児童の安心・安全を確保するため活動の充実に努める。		充 実	
	子どもの登校時の見守り・挨拶運動	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	継続	子どもの登校時の安全を確保するため、毎月 1 回通学路の要所で見守り・挨拶運動を実施	・今後も継続して実施していく。		充 実	
	防犯パトロール	・東海小・中学校区小域福祉ネットワーク ・防犯協会	継続	小域福祉ネットワークと東海・海上地区防犯協会が協働し、安心・安全で暮らせる地域づくりに向け、犯罪防止、防犯パトロールに交通安全指導を加え実施	・地域の安全・安心を確保する活動の充実に向け、今後も継続して実施していく。		充 実	
	地域防災対策の推進	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	継続	災害時の地域防災、減災に向けての体制づくりを強化するとともに「自主防災組織連絡協議会」との更なる連携をすすめる。また、災害時要支援者への支援体制を構築するとともに、災害発生時に相互に協力し合える近隣の自主防災組織間の連携を図る。	・地域住民の安全・安心の観点から地域防災、減災への取り組みを積極的にすすめる。		充 実	
	避難所運営委員会事業の推進	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	継続	東海小・中学校区防災マップを活用し防犯パトロールを適宜実施。また、町会や自主防災会などが一体となった「東海小学校避難所運営委員会」及び「東海中学校避難所運営委員会」を設置し、災害発生時には地域住民が連携しながら避難所を開設・運営する体制を構築する。	・地域の町会や自主防災会などが一層連携し、一体となった運営体制の構築に努める。		充 実	

基本目標 4：誰もが暮らしやすい環境づくり

活動対象 区 域	活動・事業名	実施主体	新規 継続	事業目的及び内容	今後の取り組みの方向性	年度別目標（開催回数・会場数・参加者数値など）			
						2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
白金・五井・ 若葉小学校区 域	白金小学校支援活動	白金小学校区スマイルネットワーク	継続	学校支援活動として校内の草刈り及び清掃などの美化活動を実施	・学校との連携を強化し、広く協力者を呼びかけ、担い手を確保していく。		充 実		
京葉・千種小 学校区域	一斉清掃	地域町会（京葉小地区）	継続	町会全域を対象にゴミ拾い、草刈りを実施する。このことで参加者のコミュニケーションの場となる。	・今後も継続実施していく。		推 進		
	一斉清掃	千種小学校区小域福祉ネットワーク	継続	町会単位で一斉清掃及び草刈りを年 2 回実施し、環境美化に努める。	・今後も継続実施していく。		充 実		

	賛助会員制度の充実	地区社協	継続	五井地区の地域福祉活動・事業の充実・強化を図るための財源確保のため「地区社協賛助会員制度」の充実を図る。	・地域住民や関係組織・団体に広報紙やチラシを活用し地区社協活動・事業の周知、理解の促進を図り会員拡大につなげる。 ・地区社協理事及び評議員が所属する団体への会員募集の働きかけを強化する。									
白金・五井・若葉小学校区域	広報活動	白金小学校区スマイルネットワーク	継続	地域住民に対して、地域福祉活動及び小域福祉ネットワークの理解を促進するとともに、活動への賛同・参画者の発掘につなげる。	・昔遊びなどに長けた方々の協力を得て、世代間交流を図る中で、学校や児童に対して小域福祉ネットワーク活動の理解を深めていく。									
	広報活動	五井福祉ネットワーク	新規	地域住民に対して、地域福祉活動及び小域福祉ネットワークの活動内容の周知及び理解を得るため広報紙（回覧板）を発行する。	・平成 30 年度 9 月第 1 号を発行し、以降内容の充実に努めていく。									
	広報活動	わかば福祉ネットワーク	継続	地域住民に対して、地域福祉活動及び小域福祉ネットワークの活動内容の周知及び理解を得るため広報紙「わかば福祉ネットワーク通信」を年 4 回発行し、五井第 2 ブロック 12 町会において回覧を実施	・広報活動を充実させていくため、活動の担い手、人材の確保に努める。						4 回／年発行	4 回／年発行	4 回／年発行	4 回／年発行
京葉・千種小学校区域	広報活動	千種小学校区小域福祉ネットワーク	継続	地域住民に対して、地域福祉活動及び小域福祉ネットワークの活動内容の周知及び理解を得るため、広報紙を発行する。（1～2 回／年）	・今年度 5 月に第 1 号を発行。今後、発行回数の増、内容の充実に努める。						1～2 回／年発行	1～2 回／年発行	1～2 回／年発行	2～3 回／年発行
国府・東海小、中学校区域	広報活動	国府小学校区小域福祉ネットワーク	新規	地域住民に対して、地域福祉活動及び小域福祉ネットワークの活動内容の周知及び理解を得るため広報紙（回覧板）を発行する。 ※広報紙の発行に向け検討中	・広報紙（回覧板）の早期発行に向け準備をすすめる。									
	広報活動	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	継続	地域住民に対して、地域福祉活動及び小域福祉ネットワークの活動内容の周知及び理解を得るため広報紙（「いきいきネット通信」「いきいきネット通信（瓦版）」を発行する。	・よりタイムリーな記事の掲載に努めていく。									

7. 計画の進行管理

本計画は、進捗状況を確認したうえで評価し、必要に応じて見直します。また、個別事業については単年度ごとに、各事業実施団体の事業計画に反映していただき、それぞれ当該年度末に実施状況の評価を行い、必要に応じて次年度の事業計画に反映していただきます。

計画全体の進行管理については、計画策定作業にあたった五井地区行動計画策定委員会の構成メンバーを中心に構成した「五井地区行動計画推進委員会」で行います。

《資料編》

1. 計画の策定経過

開催日	会議名	主な内容
2017年 8月24日	地区社協三役会議	1. 市社協より趣旨説明 2. 今後の進め方について
9月21日	地区社協役員会議	1. 市社協より趣旨説明 2. 地区行動計画策定委員会の設置について
2018年 1月30日	地区社協三役会議	1. 地区行動計画策定委員会の設置及び構成組織について 2. 今後の進め方について
3月7日	地区社協理事会	1. 地区行動計画策定・推進事業について 2. 第1回地区行動計画策定委員会の設置及び構成組織について 3. 第1回地区行動計画策定委員会の開催について
3月13日	地区社協三役会議	1. 第1回地区行動計画策定委員会の開催に係る打合せ
3月29日	第1回地区行動計画策定委員会	1. 市社協より趣旨説明 2. 計画策定委員長及び副委員長の選任について 3. 計画の基本的な項目について 4. 計画策定スケジュールについて 5. 地域課題の抽出方法について
5月24日	地区社協役員会議	1. 第2回地区行動計画策定委員会に向けての打合せ
5月30日	第2回地区行動計画策定委員会	1. 五井地区における「福祉活動の取り組みの実態」及び「地域課題について 2. 課題解決に向けた「基本目標」と「重点的な取り組みの方向性」について
6月19日	地区社協三役会議	1. 第3回地区行動計画策定委員会に向けての打合せ

7月3日	第3回地区行動計画策定委員会	1. 「基本目標」と「重点的な取り組みの方向性」について 2. 「基本理念」について 3. 具体的な「活動・事業（事業実施計画書）」について
7月24日	地区社協三役会議	1. 第4回地区行動計画策定委員会に向けての打合せ
7月26日	第4回地区行動計画策定委員会	1. 「基本理念」について 2. 計画（案）について
8月21日	第5回地区行動計画策定委員会	1. 計画（案）の最終確認について 2. 「五井地区行動計画推進委員会」の設置について

2. 地区行動計画策定委員会委員名簿

No.	氏 名	所 属 団 体	備 考
1	鵜田 信行	地区社会福祉協議会	委員長
2	島田 晴夫	//	
3	伊藤 尚樹	//	
4	高木 慎冶	町会長会	副委員長
5	安藤 敏明	//	
6	正司 博徳	地区民生委員児童委員協議会	
7	伊藤 仁司	//	
8	三枝 照美	//	
9	池田 雅江	//	
10	飯島 洋子	子育て家庭支援員協議会	
11	森 京子	更生保護女性会	
12	櫻井 次男	白金スマイルネットワーク	
13	山下 學	わかば福祉ネットワーク	副委員長
14	杉山 興司	千種小学校区小域福祉ネットワーク	
15	石井 康久	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	
16	野城 俊博	国府小学校区小域福祉ネットワーク	
17	須堯 峯宏	五井福祉ネットワーク	
18	川名 昭雄	老人クラブ	
19	長島 知子	地域包括支援センター ごい	

オブザーバー	岡田 廣高	五井地区社会福祉協議会会長
事務局	村山 路子	五井地区社会福祉協議会地域福祉部会長

五 井 地 区 行 動 計 画

(2018 年度～2021 年度)

2018 年 10 月 1 日発行

編 集 五井地区行動計画策定委員会

発 行 五井地区社会福祉協議会